

第5章 推進体制

[1] 市民・事業所との協働体制（全市環境 ISO 運動）

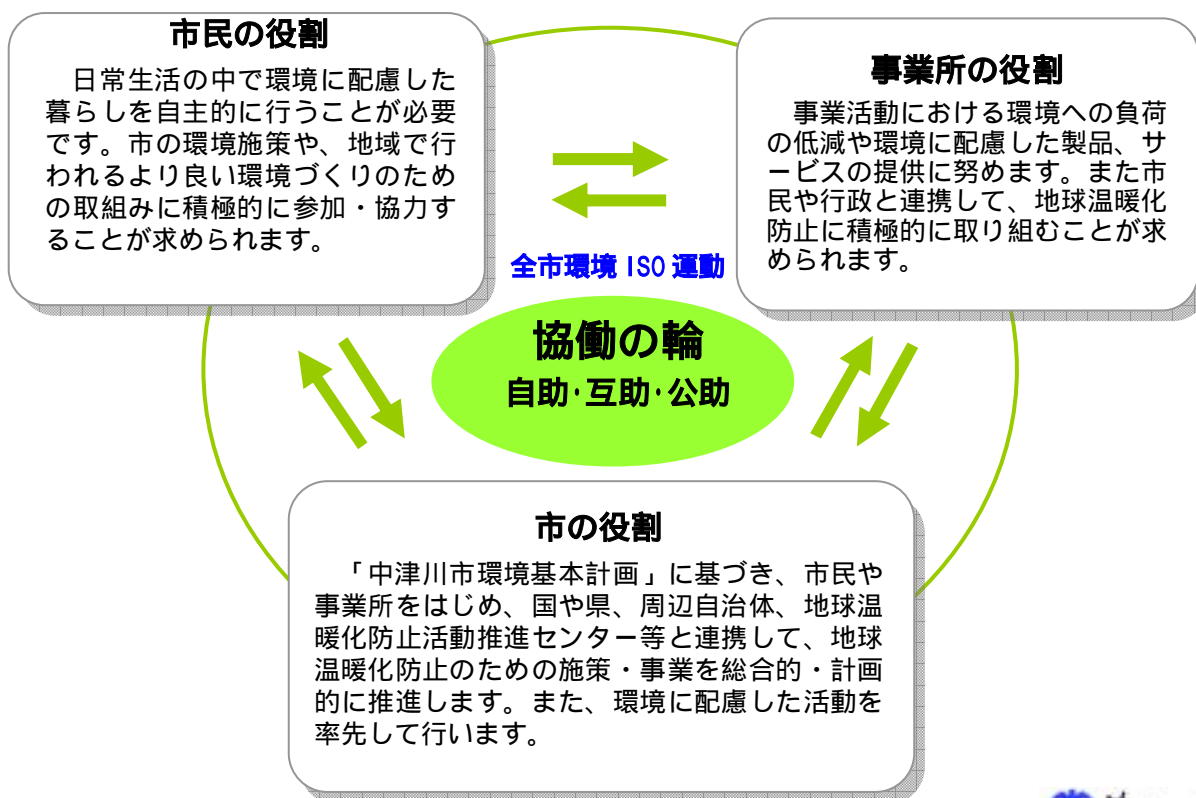
中津川市では、市民・事業所・市の各主体が協働しつつ、国や県の戦略、施策と連携を図りながら「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」の実現を目指しています。これらの実現のために、市民・事業所・市の各主体が「自助力」「互助力」「公助力」により、環境基本計画の着実な推進と目標実現を図る「全市環境 ISO 運動」をスタートさせています。

小水力発電開発は、小～ミニ～マイクロ水力発電規模では事業費が億単位となり、市民中心での開発は困難で、行政が主体で開発を行います。行政が主体で開発を行うにしても、中津川市の財産を残すわけですから、市民や事業所の意見を取り入れてよりよいものにします。

また、マイクロ～ピコ水力発電規模では水車・発電機の規模も小さく、中津川市は水という自然からの贈り物に恵まれており、市内の数多くの地点で開発が可能です。ただし、これらの小さい規模の水力発電は事業費が小さく、市民・事業所が中心となって開発を、その地域に即して行ってください。ただし、市役所も開発計画から維持管理までお手伝いします。

資料-1 環境基本計画の基本的考え-各主体の役割（再掲）

（出典：新中津川市環境基本計画/平成19年3月）



[2] 市民委員会

市民・事業所の意見を中津川市の小水力開発計画および基本構想に取り入れるために、市民委員会を発足しました。

市民委員会は、中津川市と市民・事業所で構成しています。市民の代表は、学識経験者・議会代表・市民代表の方々としました。事業所は中津川市内の主だった事業所団体としました。市民・事業所の構成メンバーは以下の方々です。

表 5-1 市民委員会の構成メンバー（市民・事業所の代表）

区分	氏名 敬称略	備考
学識 経験者	富田 進	中京学院教授（環境保全審議会会長）
	幸脇 康行	中津川市小中学校代表（坂本小学校長）
議会代表	島田 千寿	中津川市議会代表（民生委員長）
市民代表	鷺見 榮一	中津川市広報会長連合会副会長
	今井 幸二 ¹	恵那漁業協同組合代表
	福田 光男 ²	中津川自然エネルギーの会
事業所 代表	堀田 時男	中津川商工会議所代表（専務理事）
	稲熊 範彦	中津川北商工会代表（事務局長代理）
	西村 榮一	中津川市環境推進協会長（DNPテクノパック東海）
	原 実好	ひがしみの代表（JA営農部長）

1 委員長 2 副委員長 事務局：中日本建設コンサルタント株式会社

平成 20 年度に市民委員会は 3 回開催しました。第 1 回は「中津川市の小水力発電開発の必要性」、第 2 回は「小水力発電開発の先進地の見学（山梨県）」、第 3 回は「中津川市内の水力発電候補地（3 箇所）の見学と水力発電候補地の討議」でした。

さまざまな角度から意見交換を行い、中津川市には小水力発電の有力な候補地が数多くあること、市民・事業所でも今後開発を検討すること、市民委員会が主導で行う開発計画への理解をいただきました。

これから、市民・事業所が主体になって小水力発電を計画する場合には、必要に応じて市民委員会を開催しますので市役所にご相談ください。



第 1 回の討議



第 2 回の先進地見学会



第 3 回の候補地視察(小郷)

[3] 事業実施に当たっての留意事項

3-1 事業採算性の検討

小水力発電施設の開発にあたっては、年間を通じた流量（変動）調査、年間発生電力量の算定、最適施設の建設コスト算定、電力需要側用途の確定と負荷変動のシミュレーション、維持管理体制の確立と管理コストの算出、最適送電システム/蓄電システム新技術の検討、電気事業者との系統連携システムの検討 売電価格、等を詳細に検討しながら、中津川市にとって将来における新たな財政負担となることなく、“持続可能な”再生エネルギーシステムとなるようにすることが重要です。

3-2 地域共有資産としての意識共有

小水力発電施設の開発、運用は、中津川市環境基本計画で示された、市民・事業所・市の各主体が「自助力」「互助力」「公助力」により協働するという理念に基づいた地域共有資産であるという意識の共有を念頭に、事業化プロセスにおける市民の方々や事業所との緊密な連携を図っていくことが求められます。

3-3 自然共生型エネルギーシステムとしてのアピール

小水力発電は、「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」という持続可能な地域社会を考える上で、大変親しみやすく理解しやすいシステムであるという利点を生かし、市民の方々や小中学生が、持続可能な地域環境や地球環境を考え、理解を深めるための材料として、現地見学会の開催や小中学校での解説授業、中津川市の広報誌、ホームページでの紹介など、積極的な情報発信をすることが大切です。

また、ミニ水力発電施設については、観光資源としての活用方法等についても検討していく必要があります。

[4] フォローアップ

本「小水力発電開発基本構想」に基づくマイクロ/ミニ水力発電施設開発計画の詳細や施設実現までのプロセス、発電によるCO₂削減効果や財政への貢献等については、中津川市の広報誌やホームページなどで公開することにしており、市民の方々との情報共有を基本に構想の実現を図りたいと考えています。

また、市民・事業所の方が水力発電を計画される場合については、基本計画・施設設置・維持管理・運営まで、市が連携し、市民委員会が全体をフォローアップしていきます。

結び

中津川市が、その豊かな自然の恵みを活かしながら持続可能な地域社会の実現をめざす、小水力発電事業は、本基本構想にもとづき、平成21年度から本格的に着手します。そのスタート事業はピコ水力発電ですが、これを皮切りとして近い将来には、中津川市域に2カ所のマイクロ水力発電施設と3カ所のピコ水力発電施設が誕生する予定です。

計画の推進にあたって、市は市民の方々、事業所の皆さんとの緊密な連携の下に様々なアイデアやご提案を取り入れながら、中津川市民の誇りとなる施設の実現をめざします。

また、小水力発電事業が、持続可能な地域環境や地球環境を地域全体で考え、理解を深めるための材料となるよう、さまざまな活動を展開していきます。

さらには、馬籠水車小屋等のピコ水力発電施設の観光資源化についても、市民の皆様とともに検討していきたいと考えています。

市民・事業所・市が「自助力」「互助力」「公助力」のもとに連携しながら、本小水力発電事業を成功させるために、市民の方々、事業所の皆さんのご協力、ご支援を宜しくお願い致します。